TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　306語

The Dog, the Cock, and the Fox

犬とおんどりとキツネ

Aesop（1919年の本）　**原文そのまま**　朗読：Halle Kill

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　旅に出た犬とおんどり。朝、おんどりが鳴いたせいで、おなかをすかせたキツネがやってきます。おんどりはどうする？



A Dog and a Cock, who were the best of friends, wished very much to see something of the world. So they decided to leave the farmyard and to set out into the world along the road that led to the woods. The two comrades traveled along in the very best of spirits and without meeting any adventure to speak of.

At nightfall the Cock, looking for a place to roost, as was his custom, spied nearby a hollow tree that he thought would do very nicely for a night's lodging. The Dog could creep inside and the Cock would fly up on one of the branches. So said, so done, and both slept very comfortably.

With the first glimmer of dawn the Cock awoke. For the moment he forgot just where he was. He thought he was still in the farmyard where it had been his duty to arouse the household at daybreak. So standing on tip-toes he flapped his wings and crowed lustily. But instead of awakening the farmer, he awakened a Fox not far off in the wood. The Fox immediately had rosy visions of a very delicious breakfast. Hurrying to the tree where the Cock was roosting, he said very politely:

"A hearty welcome to our woods, honored sir. I cannot tell you how glad I am to see you here. I am quite sure we shall become the closest of friends."

"I feel highly flattered, kind sir," replied the Cock slyly. "If you will please go around to the door of my house at the foot of the tree, my porter will let you in."

The hungry but unsuspecting Fox, went around the tree as he was told, and in a twinkling the Dog had seized him.

> **Those who try to deceive may expect to be paid in their own coin.**

和訳 犬とおんどりとキツネ（The Dog, the Cock, and the Fox）

大のなかよしの犬とおんどりが、世の中を見てみたいと、とても思っていました。そこで、農家のにわを出て、森へつづく道を旅に出ることにしました。2ひきのなかまは、とても楽しい気分で、これといったできごともなく旅をつづけました。

夜になると、おんどりはいつものようにねる場所をさがし、近くにあるうろのある木を見つけて、ひとばんとまるのにちょうどいいと思いました。犬はうろの中にもぐりこみ、おんどりはえだの上にとびのればいいのです。言ったとおりにして、2ひきともぐっすりねむりました。

夜明けの光がさしはじめると、おんどりは目をさましました。おんどりは、ちょっとのあいだ、自分がどこにいるのかをわすれていました。まだ農家のにわにいて、夜明けに家の人たちを起こすのが自分のしごとだと思ったのです。そこで、つま先で立ってつばさをバタバタさせ、元気いっぱいに鳴きました。ところが、お百しょうさんを起こすかわりに、森の中の、そう遠くないところにいたキツネを起こしてしまいました。キツネはすぐに、とてもおいしい朝ごはんのことを思いうかべました。おんどりがとまっている木のところへいそいで行くと、キツネはとてもていねいに言いました。

「わたしたちの森へようこそ、りっぱなお方。あなたにお会いできて、どんなにうれしいか、ことばでは言えません。きっと、わたしたちは大のなかよしになれるでしょう。」

「そんなにほめていただいて、こうえいです」とおんどりは、ずるがしこく答えました。「木の下にあるわたしの家の戸口へまわってください。門番が中へ入れてくれますよ。」

おなかをすかせたキツネは、うたがいもせず、言われたとおりに木のうらへまわりました。するとあっというまに、犬がキツネをつかまえました。

> **人をだまそうとする者は、自分も同じやり方でしかえしをされるものです。**

たんご と クイズ 犬とおんどりとキツネ

Dog 犬	**Cock** おんどり	**woods** 森
tree 木	**wings** つばさ	**Fox** キツネ
breakfast 朝ごはん		

Q1 夜、犬とおんどりはどこでねた？

① 農家のにわ　② うろのある木　③ ほらあな

Q2 キツネが目をさましたのはどうして？

① おんどりが鳴いたから　② 犬がほえたから　③ 雨がふったから

Q3 おんどりが言った「門番」とは、ほんとうはだれ？

① お百しょうさん　② べつのおんどり　③ 犬

こたえ

Q1 ② おんどりが見つけた、うろのある木でねました。犬はうろの中、おんどりはえだの上です。

Q2 ① おんどりが農家にいるつもりで元気よく鳴いたので、近くの森にいたキツネが起きてしまいました。

Q3 ③ 木のうろの中にいたのは犬でした。キツネが木のうらへまわると、犬がとびかかりました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Halle Kill（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。